

(左から)医療福祉生協連 高橋会長、日本生協連 土屋会長、コープ共済連 和田理事長

### 新しい年も「つながる力」で支え合いを広げる

日本生活協同組合連合会  
代表理事会長 土屋 敏夫



新年あけましておめでとございます。

昨年にも各界の皆様より、全国の生協に対し多大なご支援を頂きましたこと、厚く御礼申し上げます。

2020年以來、度重なる新型コロナウイルス感染症の流行は、くらしに大きな影響を与えてきました。社会の変化に対応した新しい技術やサービスなど、新たな価値も生まれる一方で、貧困・格差の拡大や社会的孤立・分断の進行も懸念されます。厳しい雇用、所得環境が続く中、原油や原料価格の高騰による家計への影響も予想されます。

全国の生協では、地域に根差した助け合いの組織として、行政や諸団体と連携しながら、コロナ禍の中で、社会のつながりを紡ぐ取り組みを広げてきました。事業を通じて組合員のくらし

を支えつつ、生活に困窮する家庭に向けた、食料・物資提供・募金等を通じた支援、コロナ禍で大きな影響を受けた医療従事者への支援、大学生への食料支援、需要減に苦しむお取引先への支援企画を実施するなど、工夫を凝らした様々な活動を展開してきました。

2022年も感染症対策の下でのくらしが続きます。「日本の生協の2030年ビジョン」で掲げた「安心してくらし続けられる地域社会」「誰一人取り残さない、持続可能な世界・日本」の実現に向けて、行政や社会福祉協議会、他の協同組合、諸団体とのネットワークを、さらに豊かなものとするよう取り組んで参ります。非対面コミュニケーションも活用しながら、「つながる力」で、各地域の支え合いの実践を広げていきたいと存じます。引き続き、各界の皆さまよりご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。結びにあたりまして、皆様のご健勝とご多幸を心より祈念し、新年のご挨拶に代えさせていただきます。

## 「たすけあいの輪」で幅広い世代に包括的なサポートを

日本コープ共済生活協同組合連合会  
代表理事 和 田 寿 昭



新年、明けましておめでとう  
ございます。

昨年は、一昨年に引き続き新型コロナウイルスがくらしに暗い影を落とした一年となりました。新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々のご冥福をお祈りしますとともに、罹患された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

コープ共済連では、共済掛金払込猶予期間延長や自宅療養を入院とみなす共済金のお支払いを継続したほか、「医療従事者応援プロジェクト」に取り組みました。

コロナ禍で高まるくらしへの不安から保障ニーズは高く、また会員生協の組合員に寄り添った仲間づくりにより、2021年度の加入者は920万人（2021年11月現在）となりました。長年の会員生協の努力により加入

者の輪が広がったことで、COP・OP共済の保障がさらに充実し、業務品質が向上しています。昨年9月よりCOP・OP学生総合共済募集開始、「たすけあい」ジュニアコースの満期年齢を20歳から30歳に延長、本年9月には同じ掛金で保障を充実させた《たすけあい》の新课程がスタートします。

昨年10月より、子どもの貧困、学業継続への影響などコロナ禍で様々な困難を抱える若い世代を応援する「子ども・学生未来応援プロジェクト」を実施し、包括的に若者の未来を応援しています。地域共生社会実現に向け、生協と他団体が協働する活動を支援する「地域ささえあい助成」は昨年10年目を迎え、中高年層への「健康づくり支援企画」もますます発展しております。本年も「たすけあい」の共済であるCOP・OP共済の価値をより高め、幅広い世代へ広めていきたいと考えております。これからの一年が皆様にとって価値あるものとなることをお祈り申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 全国の協同組合、関係団体の皆様からの多大なご支援に感謝申し上げます

日本医療福祉生活協同組合連合会  
代表理事会長理事 高 橋 淳



あけましておめでとうござい  
ます。謹んで新年のお慶びを申  
し上げます。

昨年は、コロナ禍の中、首都圏を中心に1年のほとんどで緊急事態宣言・まん延防止等重点措置が出されていきました。

いのちと健康が脅かされ、くらしや雇用の破壊に加え、「医療崩壊」が現実のものとなり、多くの尊い命が奪われました。また、多数の犠牲者を伴う自然災害も発生しました。

お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、罹患された皆様、お怪我をされた皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

一昨年、私たち医療福祉生協は「誰もが健康で居心地よくくらしをもちづくりへの挑戦」をメインテーマとする「医療福祉生協の2030年ビジョン」を

決定しました。2021年は、この「2030年ビジョン」で掲げた「ありたい姿」に向けてゆるやかなつながりを広げ、「地域まるごと健康づくり」に旺盛にとりくみました。さらに、行政や地域の医療機関などと連携・協力し、発熱外来やコロナ感染者の受け入れ、ワクチン接種対応に尽力してきました。

今後も私たちは、地域において「誰もが健康で居心地よくくらしをもちづくりへの挑戦」を続けていく所存です。

昨年は、全国の協同組合、関係団体の皆様より、多大なるご支援をいただき心より御礼を申し上げます。

引き続き医療福祉生協に対する皆様のご理解と、ご指導・ご鞭撻をお願いするとともに、2022年が皆様にとって幸せな一年となりますよう、心から祈念申し上げます。





新春を迎え、謹んでご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルス感染症については、ワクチンや病床の確保など関係大臣と協力して国民の命と暮らしを守るための対策に、本年もしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

そうした中、生協の皆様には、宅配事業をはじめ、医療・福祉・共済金の支払いなど、社会機能の維持に大きく寄与いただいておりますことに、改めて感謝を申し上げます。

我が国の生協は長きにわたり、食料品などの供給事業や共済事業、医療・福祉事業など生活者の立場から様々な事業を行い、国民生活の安定と生活文化の向上に多大な貢献をされました。

今日では約900組合の生協が、組合員への最大奉仕という生協の理念に基づき、6,000万人を超える組合員の多様なニーズに応え

るため、高齢者や子育て世代などを対象とした居場所づくりや健康づくり、生活苦を抱える方や子どもへの貧困問題への支援、さらには災害時の自治体との連携など、多種多様な取組を展開されております。

さらに、近年日本生活協同組合連合会では「コープSDGs行動宣言」を採択し、誰もが笑顔で暮らすことができる持続可能な社会の実現を目指し、全国の生協で環境や社会に配慮した商品開発、ユニセフを通じた子ども支援などの取組を進められています。

地域の課題を我が事と捉え、多数の組合員が日常的に参加している生協の活動は、家族や仲間との絆を大切に「地域共生社会の実現」を図る取組の先駆けであり、生協に対する期待は益々高まっていくものと感じております。

生協が将来に渡り、その役割を的確に果たしていけるよう、厚生労働省としても今後とも関係諸施策の充実に努めてまいりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

結びにあたり、生協の皆様の御健勝と御多幸を祈念し、新年の御挨拶とさせていただきます。

## 新年を協同組合のさらなる飛躍の年に

一般社団法人日本協同組合連携機構 (JCA) 代表理事会長  
一般社団法人全国農業協同組合中央会 代表理事会長  
中家 徹



新年明けましておめでとうございませう。

昨年は引き続きコロナ禍にもなう様々な困難に立ち向かう年となりました。とりわけ日本社会の抱える課題が深刻化する中、人と人とのつながりを基礎とする協同組合の果たす役割が大きく自覚される年でもありました。

そのような中、日本生協連は「生協の2030環境・サステナビリティ政策」を策定されました。これは、「すべての人々が人間らしく生きられる豊かな地球を、未来の子どもたちへ」をめざし、「日本の生協の2030年ビジョン」を具体化したものとお聞きしています。

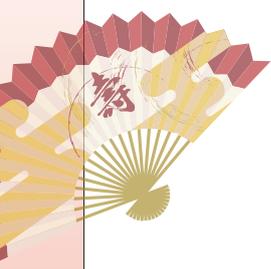
JAGグループは去る10月の第29回JA全国大会において「持続可能な農業・地域共生の未来づくり」を掲げる決議を行い

ました。いずれも持続可能な地域社会の実現を目指したものとなっています。

昨年、JCAは2030ビジョン「協同をひろげて、日本を変える」を決定しました。「学ぶ」と「つながる」プラットフォームとして、協同組合間連携や協同組合共通の研究・提言等を進めることを通じ、持続可能な地域づくりに貢献してまいります。

12月に開催されたICAソウル大会では、協同組合のアイデンティティの検証・見直しについての議論が提起されました。コロナ禍で人と人とのつながりの大切さが実感される中、皆様とともに、この議論を実りあるものにし、新年を、協同組合のさらなる飛躍の年としてまいりましょう。

結びに、皆様の益々のご健勝ご発展をお祈りするとともに、JCAとして一層の取り組みをお誓い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 力を出し合い、協働で地域共生社会の実現を

社会福祉法人全国社会福祉協議会  
会長 清家 篤



新年明けましておめでとうございます。

一昨年春以来のパンデミックによる危機が長期化するなか、日本の社会・経済は引き続き厳しい状況にあり、人々の暮らしにも大きな影響を及ぼしています。失業や減収により、先を見通せず苦しい生活を余儀なくされる人たちも増え、子どもたちを含む幅広い世代で孤独・孤立の問題の深刻化なども懸念されます。

こうした状況において、全国各地では、生活協同組合と社会福祉協議会が連携してフードバンクやフードパントリーを実施したり、ひとり親世帯や学生への食糧支援に取り組みたりするなど、人と人の接触が制約されるなかでも、孤独・孤立を防ぎ、地域でつながろうとする様々な実践が行われています。

ます。

「協力の力」によって、くらしの願いを実現し、社会的な課題を解決していくという生活協同組合の取り組み、さらに、貴会が2020年6月に公表された「つながる力で未来をつくるCO-OP2030」に示された目標は、本会の掲げる「ともに生きる豊かな地域社会」のビジョンと方向性を同じくするものと考えております。

生活協同組合と社会福祉協議会が、それぞれの持てる力を出し合い、協働することは地域共生社会の実現を後押しする力になると確信しております。引き続き、さらなる連携強化に向け、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

結びに、皆様のご健勝とご多幸を心より祈念し、年頭のごあいさつとさせていただきます。



## 一層の使命感を持って、組合員の皆様の期待に応える

日本生協連虹の会 会長  
味の素株式会社 取締役代表執行役社長 最高経営責任者  
西井 孝明



日本生活協同組合連合会様、会員生協の皆様、虹の会会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましてはよき新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、旧年中は「日本生協連虹の会」に格別のご支援、お引き立てを賜り、心より御礼申し上げます。

昨年も新型コロナウイルスの影響により、多くの国民が長期間に渡り制約の多い生活を強いられ変化への対応に追われ続けました。その一方で自宅での食事の楽しみ方や、免疫力・栄養バランスといった健康を意識した食生活などは、緊急事態宣言解除後も元に戻る事なく定着したライフスタイルと言えるでしょう。この環境下で組合員の皆様は、ライフラインとしての生協宅配・店舗の重要性を再

認識されたことと思います。昨年度も新規組合員が増え続け、私ども「日本生協連虹の会」会員各社は一層の使命感を持って組合員の皆様の期待に応えるべく取り組みなければならぬと思いを新たにしています。

日本生活協同組合連合会様におかれましては、昨年創立70周年を迎えられ、「日本の生協の2030年ビジョン」につながる力で未来をつくるCO-OP2030の実現に向け大きな社会的役割も担っておられます。今後withコロナの生活から生まれた行動変容による新たな消費動向と、経済の回復の加速に期待すると共に、これまで以上に日本生活協同組合連合会様と虹の会が一体となりSDGsの実現を目指していきたいと考えています。

結びにあたり、2022年も、変わらぬご支援をお願い申し上げますと共に、関係各位皆様の益々のご繁栄とご健勝そして一刻も早い新型コロナウイルスの終息を祈念申し上げて新年のご挨拶とさせていただきます。